

Serum WFA+-M2BP is a non-invasive liver fibrosis marker that can predict the efficacy of direct-acting anti-viral-based triple therapy for chronic hepatitis C

浦, 和也

<https://hdl.handle.net/2324/1654731>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏名：浦和也

論文名：Serum WFA⁺-M2BP is a non-invasive liver fibrosis marker that can predict the efficacy of direct-acting anti-viral-based triple therapy for chronic hepatitis C
(非侵襲的肝線維化マーカーの血清 WFA⁺-M2BP 値により C 型慢性肝炎に対する直接ウイルス阻害薬併用 3 剤療法の効果が予測できる)

区分：甲

論文内容の要旨

Wisteria floribunda agglutinin-positive human Mac-2-binding protein (WFA⁺-M2BP) は肝線維化に特有の糖鎖変化を利用した新規の血清肝線維化マーカーである。実臨床における WFA⁺-M2BP の肝線維化診断能、及び、直接ウイルス阻害薬 (direct-acting anti-virals : DAA) を用いた C 型慢性肝炎治療の効果予測に WFA⁺-M2BP が有用であるかを検討した。DAA (テラプレビルまたはシメプレビル) とペグインターフェロン α 、リバビリン併用療法を受けたジェノタイプ 1 型の C 型慢性肝炎患者 159 例を対象とした。血清 WFA⁺-M2BP 値は、肝線維化の進行と共に有意に上昇した。受信者動作特性曲線下面積解析の結果、WFA⁺-M2BP の高度線維化 (F3-4) に対するカットオフ値は 2.17COI (cut-off index) であった。血清 WFA⁺-M2BP 値は、持続的ウイルス陰性化 (sustained virological response : SVR) 率と有意に負の相関を示した。多変量ロジスティック解析の結果、血清 WFA⁺-M2BP 低値 (<2.17COI) は有意に SVR と関連した因子であった (オッズ比=4.35、P=0.027)。たとえ、前治療無効者、interleukin-28B 対立遺伝子マイナー例、組織学的高度肝線維化例などの難治例であっても、血清 WFA⁺-M2BP 低値例における DAA 併用 3 剤療法の治療効果は良好であった。血清 WFA⁺-M2BP 値は新規の血清肝線維化マーカーであり、DAA 併用 3 剤療法の治療効果予測に有用である。